

○第5回神戸圏域圏域地域医療構想調整会議地域包括ケア推進部会 開催結果

圏域名	神戸圏域
日時	令和元年7月29日(月) 13:30~15:30
場所	三宮研修センター 805会議室
司会	神戸市医療監 北 徹 神戸市保健福祉局健康部長 熊谷 保徳
出席者	別紙出席者名簿のとおり
議事次第概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議事</li> <li>平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)に関する事業報告</li> <li>平成31年度地域医療介護総合確保基金(医療分)に関する査定結果</li> <li>令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分)に関する事業提案(仮称)多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会について</li> <li>・報告</li> <li>4専門部会の報告</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)で実施された事業について、各団体より報告</li> <li>・平成31年度地域医療介護総合確保基金(医療分)査定結果について、事務局より報告</li> <li>・令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分)事業提案について、事務局及び提案団体より説明 (全16件:区医師会5件、市歯科医師会1件、区歯科医師会9件、看護大学1件)</li> <li>・「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」の立ち上げについて、事務局より説明</li> <li>・4つの専門部会の開催状況について事務局より報告</li> </ul>
主な質疑応答	<p>①平成30年度地域医療介護総合確保基金(医療分)に関する事業報告 ○神戸市歯科医師会「周術期口腔機能管理に係る医科歯科連携事業」について、歯科口腔外科医師がいない病院もあるが、開業の歯科医師との連携は難しいのか。(委員) →病院や各科の事情、時間の都合など、マッチングしないことも多いが、かかりつけ医が中心となり、病院と開業医が連携して口腔機能管理を推進している。特に最近では、歯科のない病院でも、地域医療連携室を中心とした情報提供によって、口腔機能管理が実現するという状況が生まれてきている。(提案者)</p> <p>②平成31年度地域医療介護総合確保基金(医療分)査定結果 事務局より説明。質疑なし。</p> <p>③令和2年度地域医療介護総合確保基金(医療分)に関する事業提案 ○看護大学の新規提案「看護師等養成所の施設・設備整備」について、兵庫県の看護師の離職率が高くなっていることから、とてもよい事業である。学生だけでなく、神戸市内・兵庫県内で働く看護職など、いつでも、誰でもシミュレーションセンターを使うことができる状況</p>

	<p>になればありがたい。(委員)</p> <p>④ (仮称) 多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会について  ○神戸市と神戸在宅医療・介護推進財団が行ったシンポジウムで、歯科医療従事者から、連携がうまくできていないという提案があり、専門部会の設置に至った。今後、活発に活動していただきたい。(座長)</p> <p>4 専門部会の報告  ○多職種による情報の一元化は非常に重要である。地域包括ケアシステムを推進するにあたって、医療介護連携、服薬管理を包括したICTの構築に向かっていかなければならない。皆様のご理解とご協力をいただきたい。(座長)  ○多職種連携による地域共生社会をどのようにして作っていくのかは国際的にも重要な問題である。地域リハビリテーションを広く推進していく中で、高齢者のフレイルの問題も取り上げていくべきである。年齢や障害の区別、性別、国籍などに関係なく、誰もが共生するシステムを構築しなければならない。(委員)  ○神戸市の harmo (ハルモ) に関して、お薬シート・お薬手帳と入退院連携シートを合体させるというアイデアは非常によいが、セキュリティの面に注意が必要である。また、入退院連携シートはケアマネジャーと医療機関の連携を目的に作成しており、患者に見せることを目的にしている。患者本人が自由にアクセスして見ることができるようになれば、入退院連携シートに書く内容を考えなければならなくなることに注意すべきである。(委員)  ○入退院連携シートに、今後、細かな評価を反映できる形になればよいと思う。作業療法と言語聴覚療法に関して、一般の方にも周知していきたい。(委員)  ○ケアマネジャーはケアプランなどを医療機関と共有する際、紙ベースでFAX等を使っている。ICT化によって業務の効率化や簡素化が期待できるため、今後、ICT化についてはさまざまな提案をしていこうと思っている。(委員)</p>
次回以降の予定	未定